

カツオ県民会議・情報発信分科会（第16回）・議事要旨

2019.07.19 in 司本店

日本遺産への再チャレンジせず

宮田速雄座長ほか執行部が、分科会に先立って開かれた幹事会での決定事項を報告。選に漏れた日本遺産に「再チャレンジしない」方針を幹事会で決めたことを伝えた。理由として①文化庁の選考方針が当初の趣旨からかなり変貌し、インバウンド重視の選考姿勢になってきていること②県民会議の主張は、お国自慢的で文化遺産ではなく漁業ではないかというような意見もあったことなどを挙げた。このため、「そんなものなら、こちらからお断わり、願い下げだ」という結論に達したとのこと。

NPO法人に切り替え

また、NPO法人への動きを具体化させる方針について、NPO成立には100人以上の賛助会員が必要で、正会員の多くは賛助会員という立場に切り替えてもらう必要があること、その方針を説明する文書を会員に届けることなどを説明した。

合同分科会を開催

続いて、カツオ県民会議の主張をPRする合同分科会の開催が提案され、9月14日（土）と9月28日（土）を皮切りに来年2月までの間、オーテピアを会場に開催するという方針を報告した。また、10月26日（土）に土佐歴史博物館で行う「土佐学びの日」のイベントにブースを出すことも説明した。

マイスター200人でイベントを

この後、分科会メンバーで意見を交換。

「日本遺産申請はマイルストーンだった。それがなくなった今、新たな戦略的発想を考えなくていけない。県民会議の刺客を民放のバライティーに送り込み、日常的に情報発信すればどうか」

「県外では美味しいカツオが食べられないので、カツオを食べる気がしない。私も県外にいる時は食べなかった。カツオをPRするイベントを県外で開催すればどうか。ウツボ祭りやサンマ祭りのように」

「マイスターがもうすぐ200人に達する。それを契機に、マイスターに来てもらって子供たちを中心にカツオを食べさせるイベントを開催してはどうか」

「カツオ資源危機の認識が全く世間に共有されていない。このままでは日本の味覚である出汁文化も崩れる。高知が声を上げないと誰も上げない。道のりは遠いが情報発信を切れ目なく続けて行こう」

「カツオ資源危機の現状を訴えるプロモーションビデオを作ってはどうか。県外からコンベンションで来高した団体などに見せたりすることもできる」
などの意見が出た。

プロモーションビデオ制作

この結果、マイスター200人を契機にした野外イベントを企画すること、県民会議の趣旨を訴え活動に理解を求めるプロモーションビデオを制作することで意見が一致した。

次回の情報発信分科会は8月21日（水）の14:15から。今回同様に幹事会に引き続き司本店で開催します。